

笑顔でいること

星原 美璃

戦争とは、人々からたった一つの命を奪うことである。

今この瞬間にも、世界のどこかの国では戦争が起って、戦争は人々を悲しみや憎し

みに沈めるだけ、人の笑顔や幸せを奪うだけ。戦争をして、人々の命より大切なものを得た

のだらうか。いや、得ることはない。だからう。どんな理由であらうと戦争は起きてはいけな

い。

私が小学校六年生のとき平和学習で、戦争体験者の手から、そのときの命は鳥の羽よ

り軽いと言われたり、動けない人に毒入り。のミルワを飲ませていたりして、たと聞き、

大切な家族や友だちを奪われた気持ちを持ちを考える。と胸が苦しくなる。また、命はかけがえの

ないものであり、絶対に奪ってはいけな。いもの。簡単に人を殺し合う世の中があっ。てはな

らないと、その時感じた。

もし、自分が戦争の時代に産まれていたら、
学校に通えていなかった。父が戦争に
行き、母が病院で働き、私と弟で防空壕に逃
げなく、こはいけなかった。私も弟と
二人でぶるえながら泣きさけんでいた。か
し水ない。それを考えるたびに怖いし、
悲しい。しかし、本当に体験した人のことを
考えるとき、胸が苦しい。例え、命が助か
たとし、ても多くの人の心の中に大きな傷を
残す。うう。

私たちは、人間らしく生きる権利を持って
いる。世界の一人一人が、お互いを認め合
話し合うことができれば、もう二度と戦争が
起きないと思う。

戦後七十年以上経ち、日本は平和で豊か
国になった。私たちは家族は、戦争を体験
人はいながら、戦争で傷ついたり、人た
ことを、私たちは決して心にこぼさな
今年三月から新型コロナウイルス感染症
のため学校が休校になっていて、私は四月

ら新しい学校生活をとても楽しみにしていた
 が緊急事態宣言により、休校が長引き、大好
 きな水泳にも通うことができない。また、無
 症感染者も少ないため、大好きな祖父
 や祖母とも会うことができない。でもそれは、
 私に命をつなぐために祖父たちの命を守る
 ため、自分の命を守るための当然のことであ
 る。当たり前前だと思っ、学校に通える
 ことや水泳に通えたこと、友達と会えたこと
 や祖父たちに会えたことがどんなに幸せだ
 たか改めて感じた。
 今、私たちは、戦争のときとは違う敵と戦
 い、命を守るための行動をしなければなら
 ない。私たちは、小さなことだが、
 今までの通りの生活が送れるように、自分のこ
 とだけでなく、相手のことも考えて、行動す
 るべきことをする。
 みんなが笑顔でいること、幸せでいること
 が平和だと私は思う。また、平和を守るため
 に、戦争を次の世代の人々に受けつぐ

